

リスクマネジメント研修
危険予知訓練（KYT）とは？

危険予知訓練とは？

1974年住友金属工業株式会社で開発され、ヒューマンエラー事故防止の手法として広く産業界に浸透・定着しました。

Kiken Yochi Training の頭文字から「KYT」と呼ばれます。

その方法は？

何気ない日常の風景を写真に撮ったりイラストにしたりして、その画像から得られる情報を基に、そこに潜む危険について検討します。危険を予知する訓練を定期的に行ううちに、日常のケアをただ漫然と行うのではなく、常に、何か危険が潜んでいないかと考える習慣をつけることが期待できます。

MEMO

訓練の進め方は？

①どのような危険が考えられるか？

その絵を見て、どのような危険が考えられるか？なぜなのか？
意見を出し合う。

②どうすればその危険をなくすことができるのか？

①で出された、考えられる危険に対して、どうすればその危険
をなくすことができるのか、対策について意見を出し合う。

※様々な意見が出ること、自由な発想で考えることが大切です。

MEMO

実際にやってみよう！

MEMO

デイサービスの送迎



このイラストを見て、次の観点から話し合ってみましょう。
①どのような危険が考えられるか？
②どうすればその危険を無くすことができるか？

MEMO

例えば次のようなことが考えられます。

これを正解とするのではなく、自由な発想でいろいろな意見が出ること、他者の意見を否定しないこと、皆で意見交換すること等を大切にしてください。

①どのような危険が考えられるか？

- ・止まっている送迎車のドアが開いているので、車中の利用者さんが一人で降りようとして転倒するかもしれない。
- ・認知症の利用者さんが乗っていれば、一人で降りてどこかへ行ってしまふかもしれない。
- ・利用者さんの後方から両腕をつかむように介助をしているので、利用者さんの足元が見えなくて、何かにつまずいて転倒するかもしれない。
- ・介助をしている方が中腰で、腰痛を誘発しそうな姿勢になっている。

②どうしたらその危険を無くせるか？

- ・送迎車の昇降の際には、介助者の他に見守る人を配置するなど、目が行き届くようにする。
- ・利用者を介助する時は、利用者の前か、横に立って介助する。
- ・腰痛にならない姿勢で介助を行うようにする。

MEMO
